

議案第 7 号

沖縄県立高等学校入学者選抜における特色選抜制度の基本方針について

以下の理由により、沖縄県立高等学校入学者選抜における現行の推薦入試制度に代わる特色選抜制度の基本方針を別紙案のとおり提出する。

令和4年3月17日提出

沖縄県教育委員会教育長 金城 弘昌

理 由

生徒の特性や個性の一層の伸長と、確かな学力の定着を図るため、沖縄県立高等学校入学者選抜における特色選抜制度の基本方針を決定する必要がある。

これが、この議案を提出する理由である。

【参考・根拠規定】

沖縄県教育委員会の議決事項及び教育長に委任する事項等に関する規則
(議決事項)

第3条 会議において議決する事項は、次のとおりとする。

- (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針を定めること。
- (2) ～ (10) (略)

(別紙)

沖縄県立高等学校入学者選抜における特色選抜制度の基本方針（案）

令和4年3月 日

沖縄県教育委員会

志望学科への興味や関心及び適性を有する者を選抜するという、これまでの推薦入試制度の趣旨を今後も継承しつつ、生徒が主体的な学びに向かう力の育成と、中学校までの確かな学力の定着を図り、生徒の特性や個性の一層の伸長につなげるため、以下の基本方針を定める。

- 1 意欲的な学習の態度や主体的な進路決定を促すため、生徒本人による出願とする。（中学校長の推薦を受けずに出願できる。）
- 2 特色選抜の志願者は、特色選抜と一般選抜のそれぞれに出願する。（受検機会を維持する。）
- 3 特色選抜の志願者は、一般選抜学力検査を受検することとし、その得点結果は選抜の資料とする。
- 4 生徒が主体的に志望校を決定することができるように、各高等学校は「期待する生徒像」、「育成したい生徒像」、「身につけさせたい力」を作成し、学校・学科の特色をより明確に示すこととする。

議案の説明資料

部課名 教育庁県立学校教育課

1 新制度の概要

- (1) これまでの推薦入試制度を「特色選抜制度」に改める。「特色選抜」においては、中学校長の推薦によらず、生徒は本人の特性に応じて、自ら出願する。
- (2) 「特色選抜」志願者は、「一般選抜」も同時に出願する。この場合、それぞれ異なる高等学校へ出願できる。
- (3) 特色選抜の志願者は、学力検査を受ける。
- (4) 各高等学校は、「期待する生徒像（アドミッション・ポリシー）」、「育成したい生徒像（グラデュエーション・ポリシー）」、「身につけさせたい力（カリキュラム・ポリシー）」、いわゆるスクール・ポリシーを作成することで、学校・学科の特色をより明確に示し、生徒の志望校選択の資料とする。

2 現行の推薦制度の現状と課題

(1) 現状

- ① 推薦入学希望者は、中学校長の推薦を受けて出願する。（1月中旬）
- ② 各高等学校は、推薦入学合格者の判定を行う。（1月下旬～2月初旬）
- ③ 推薦入学で合格しなかった者は、一般入学に出願する。（2月初旬）

(2) 課題

本県高等学校入学者選抜においては、昭和60年に専門学科で推薦入試制度が開始され、その後、平成6年から普通科でも導入されるなど、受検機会の複数化や選抜方法の多様化に取り組んできた。現行制度が25年以上経過する中で、生徒の能力・適性、興味・関心の多様化、社会における情報化の加速度的な進展など、学校を取り巻く教育環境は大きく変化している。

また、予測困難なこの時代に必要となる資質・能力の育成のためには、「学力の三要素」（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性）をバランスよく育むことと同時に、生徒の興味・関心等に応じた学校選択を可能にするなどの、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現するための取組が重要となっている。このような時代の流れを踏まえ、本県の現行入試制度について、以下のような課題が指摘されている。

- ① 早期合格の手段としての傾向が強く、志望学科への興味や関心及び適性を有する者を選抜するという本来の趣旨が活かされていないとの指摘がある。
- ② 推薦入学合格内定者の一部に、その後の学習意欲の低下がみられる場合があり、基礎学力の定着が十分ではないとの指摘がある。
- ③ 各中学校において、推薦基準が異なる場合があることへの不公平感の指摘がある。

3 新制度策定に至る経緯

平成 26 年 1 月…県立高校校長会（高校入試委員会）より、「入試制度の見直し・検討について」の意見書が県立学校教育課へ提出される。

平成 27 年 11 月…外部有識者を含む委員からなる「沖縄県立高等学校入学者選抜制度検討委員会」が設置される。（委員：大学、経営者協会、PTA 連合会、県立校長会、他）

平成 28 年 3 月…「今後の県立高等学校入学者選抜制度の在り方について」提言書が教育長に提出される。

「今後の県立高等学校入学者選抜制度の在り方について」提言書

- 1 中・高・大学への接続を見据えて、キャリア教育の視点に立った入試制度の改善が求められる。
- 2 基礎学力をしっかりと把握できるようなシステムが必要である。
- 3 推薦入学制度について、普通高校においては縮小の方向で検討し、専門高校においては、小論文を課したり、5教科以外の教科の傾斜配点を工夫することなどが求められる。
- 4 高校が求める生徒像を明確化し、どのような生徒を受け入れ育てていくのか中学校側に伝え、入試制度に反映させることが求められる。

平成 29 年 6 月…提言を受け、「沖縄県立高校入学者選抜制度改革に関する検討委員会」を庁内に設置し、全国の入試動向や現行制度、本県の入試制度の課題、今後の入学者選抜制度の在り方等について検討・審議を重ねる。

平成 30 年 1 月…新入試制度案（特色選抜）に関するアンケート調査を実施する。

小中学校校長へ（提出数 218 → 賛成約 89%、反対約 11%）

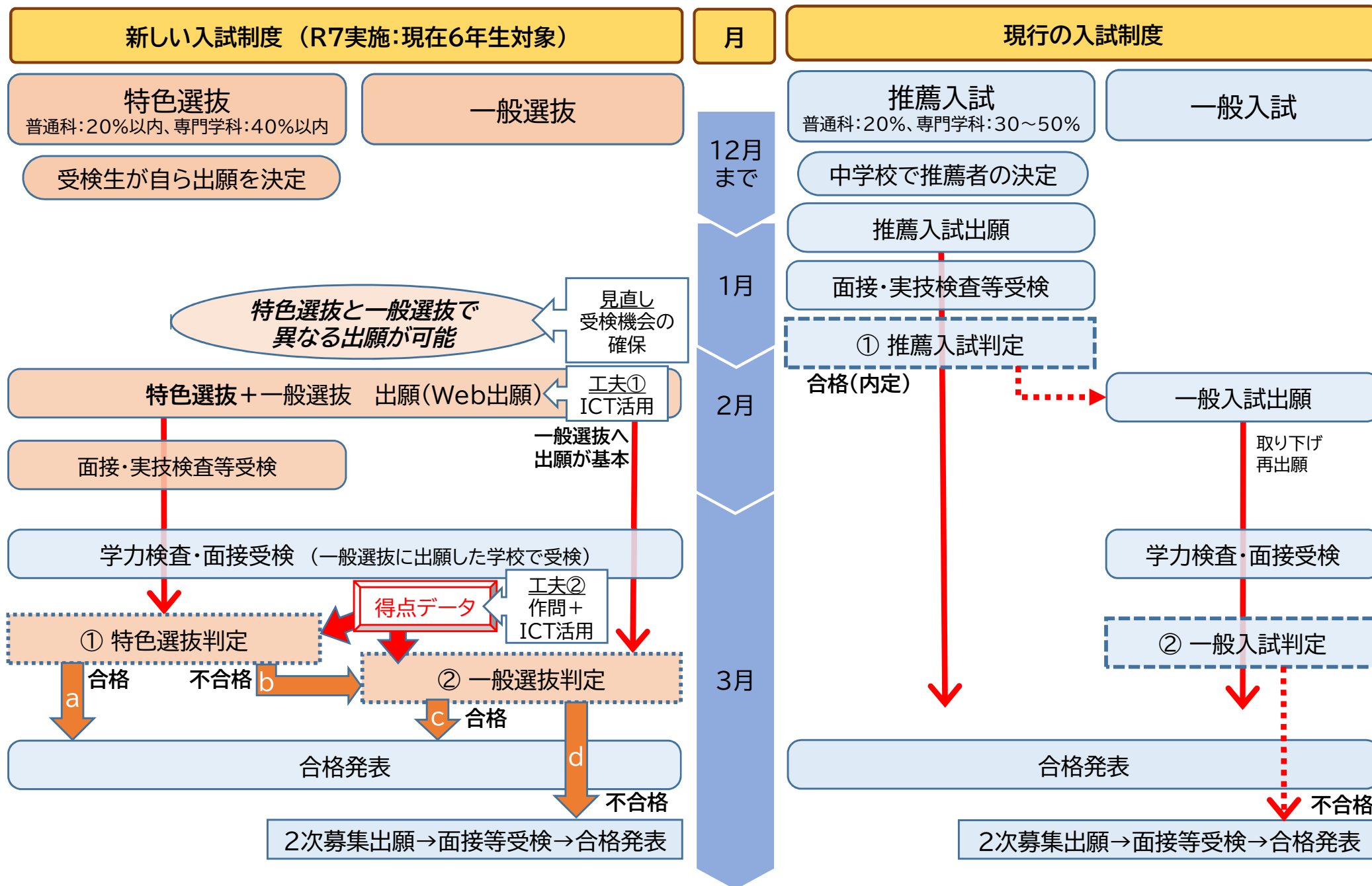
県立校長・教頭へ（提出数 162 → 賛成約 79%、反対約 21%）

平成 30 年 7 月…公私立協議会にて新入試制度案（特色選抜）を説明し、賛同を得る。（委員：大学、経営者協会、中学校長会、高等学校校長会、私立中学・高等学校協会、PTA 連合会、他）

平成 30 年 12 月…「沖縄県高等学校入学者選抜制度のあり方について」報告書が取りまとめられる。

令和元年 8 月…パブリックコメントを実施する。（8月7日～9月30日；2名より8件）

特色選抜について - 入試制度はどのように変わるのか -



「特色選抜」の目的

志望学科への興味や関心及び適性を有する者を選抜するという、**これまでの推薦入試の趣旨を今後も継承**しつつ、生徒が**主体的な学びに向かう力の育成**と中学校までの**基礎学力の確かな定着**を図り、特性や個性の一層の伸長につながる選抜とする。

現行の推薦入試の課題

沖縄県高等学校入学者選抜制度のあり方について(報告書)より
平成30年12月 沖縄県立高校入学者選抜制度改革に関する検討委員会

◆ (現行推薦入試制度は) **早期合格の手段としての傾向が強く、本来の趣旨が活かされていないとの懸念**

◆ **推薦合格内定者の一部に、その後の学習意欲の低下**が見られ、一般入試に向けた学習環境に影響を及ぼすこともあり、義務教育段階の学習内容の**確実な定着に課題**

◆ 各中学校によって**推薦基準が異なることによる不公平感の指摘**

「特色選抜」の基本方針

①生徒が自ら出願できる

- 学校推薦ではなく、生徒本人による出願とすることで、意欲的な学習の態度や主体的な進路決定を促す。

②生徒の特性や個性を伸ばす

- 受検生の志望校を決定するための資料として、各学校・学科の特色をより明確に示すための「育成したい資質・能力」や「目指す生徒像」を作成する。

③学力検査を全員受検する

- 義務教育段階の学習内容の確かな定着を図る。

④受検機会をこれまでどおり確保する

- 現行では推薦入試と一般入試で最大2校へ出願する機会があり、受検機会を維持する。

※ICT活用を推進する

- 出願システムや採点業務の効率化、複雑化する処理データの一元化等が必要となる。

スケジュール (予定)

年度(学年)	R3(小6)	R4(中1)	R5(中2)	R6(中3)
取組事項		「育成したい生徒像」の作成・配布 説明会 ← 生徒・保護者	実施要項決定 説明会 ← 受検希望者	R7 2月 実施
		説明会 ← 学校等関係者		